

地域と共に大学の避難時対応について考える ～淑徳大学のファーストミッションボックス～ 実践活動発表



チャレンジの全体像

Point.1

地域共生センターにて今後展開される事業の1つである「災害支援活動」や「支援環境整備」は、学生・教職員・地域住民等の様々な立場からの災害時対応に関する意見を共有しながら模索し、今後起こりうる災害の支援体制を構築していく。

Point.2

災害時に避難所となりうる大学の地域貢献のあり方の検討と学習を在学生・教職員・地域住民と一緒にファーストミッションボックス（以降、FMBと記載）の作成やワークショップ、実践を交えながら進めた。

Point.3

淑徳大学のFMBを制作するにあたり、事前学習（大学・地域・自治体の防災対策を知る）を実施したうえで、実際のファーストミッションボックスの制作を行った。

取り組み報告

事前学習

取組①

8月3日 木 10:00～16:00

非常食体験と防災の観点から
学内探索してみよう

- 非常食調理・試食体験
- 災害時役立つ物ランキング
- 千葉キャンパス内の備蓄物・災害用自販機など防災の視点で学内探索

取組②

8月4日 金 10:30～16:00

避難体験をしてみよう

- 自治体の災害体制を知る
- 地域の方と避難体験

取組③

8月23日 木 10:00～16:00

8月24日 金 10:00～16:00

淑徳大学の避難時対応を考える
(ファーストミッションボックスの制作)

- ファーストミッションボックスとは？
- 救助活動をとるための行動指針書の作成
- 指針書を使った避難体験とワーク

取組④

9月～1月

- ファーストミッションボックスの修正（指示書の修正）
- 修正案に関するフィードバック（社会教育やまちづくりに関わる団体・自治体より）

その他

取組⑤

- 大学祭での本プランの周知活動
- その他防災プロジェクトへの参加
- 他団体への事例紹介活動



事前学習後の学生からの感想

震災発生時には学校が避難所になるだろうなとは思っていたが、**備蓄があるのか、あるとしたらどこにあるのか考えたことも探したこともなかった。**

普段の生活でも保存食を食べることで、被災時に食べ慣れたものを食べられる、という話がためになった。

不安な中でどんなご飯を食べることができるか、食の大切さを学んだ。

大里さんのFMBの実演では、子どもたちがミッションに協力的でテキパキ動く姿勢や、はきはきと喋る姿に**感銘を受けた。**

大学周辺の避難所の把握はとても重要なことだと思った。

また、**大学周辺の地理に詳しくないことを再確認**する機会にもなった。

災害に対する考え方や、情報収集の仕方、過去の震災についてなどに対する考え方を改める機会となった。

改めて**日々の準備や情報収集の大切さ**が身に染みた。

小学生がこのクオリティでFMBを回せているのに自分たちはここまでできるのか。やらないきゃいけない、うまくやらないと、と**鼓舞された気がしました。**

①非常食体験と防災の視点からの学内探索及び避難体験の成果

・非常食やポリ袋クッキングの体験など、言葉としては知っていても体験としては知らない（非常食は通常の食品より高価なため、一人暮らしの学生の場合なかなか備蓄につながっていない、との声もあった）ものに対して、実際に経験する機会を設けることができた。

・大学における現状の防災設備や備蓄状況について、学生が直接知る良い機会となり、学生の本取り組みへの意欲の向上が見られた（通常、備蓄倉庫などは公開していないため）。

・現状に対する学生からの忌憚のない意見を拾うことができた。また、学生・教職員と意見交換をすることで、それぞれの立場の認識を共有することができた。

②自治体の災害体制を知る・ファーストミッションボックスの体験の成果

・既存の大学周辺の地域・自治体の防災の取り組みについて学ぶ機会になった。

・FMBを小学生が実際に活用している様子を見学させていただき、FMB制作のイメージを学生間で共有することができた。

・小学生たちの実演を見学したことで、「誰でも行動できるファーストミッションボックス」を学ぶことができた。



Together with him



淑徳大学
SHUKUTOKU



取り組み後の学生・教職員の感想

FMB(制作)は、『誰にでもわかりやすく伝える』ことや、『様々な状況を考える』点において、**将来就く職場だけでなく、実生活にも活かすことができる。**

指示は細かいが情報量は制限され、最初に到着した人に責任がのしかかるわけでもなく、**あくまでより多くの命を守るための指示であることに感動した。**

他組織の事例等を知る良い機会となったことはもちろんのこと、**自組織の足りない部分を実感する契機**となりました。

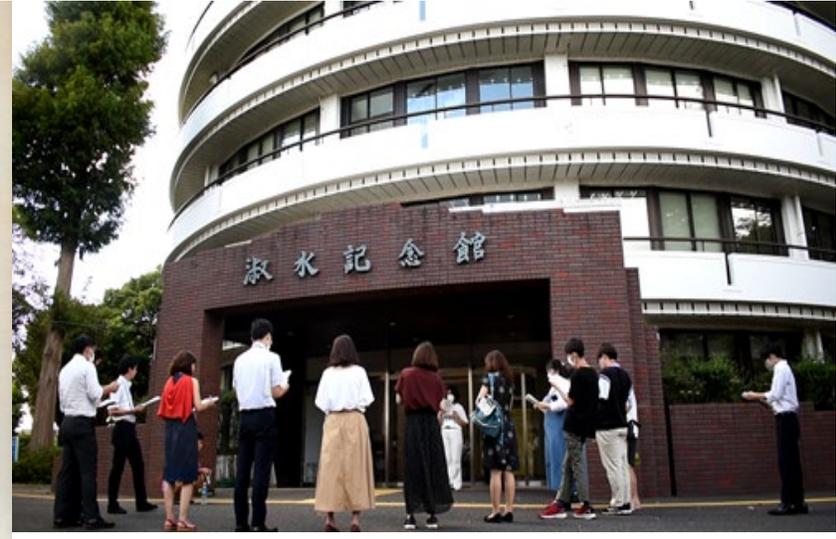
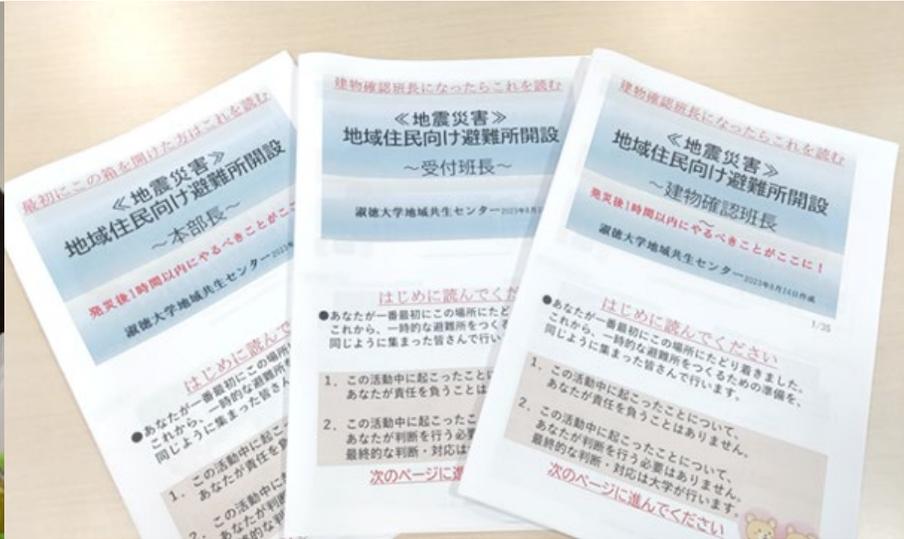
周辺住民が安心して避難してこられるような良いFMBを作らなければならないな、と思いました。

淑徳大学で出来ること、出来ないことがわかって良かった。考えてゆく中で**改めて、淑徳大学にFMBを設置すべきだ**と強く思った。

広い土地、たくさんの方がいる淑徳大学をどうにかうまく活用して**災害時に安心してもらえる場所**にするためにこれからも試案していきたい。

③ファーストミッションボックスの制作活動の成果

- ・各キャンパスの教職員と学生が、大学の防災について意見を交わす機会を作ることができた。
- ・FMBの基礎となるフレームワークと指示書について、専門家のアドバイスの元、カスタマイズしたものを作ることができた。
- ・大学をはじめ、千葉キャンパス周辺（千葉市蘇我・大巖寺エリア）において、地域防災に関する地域の取り組みが少なく、本学教職員・学生ともに防災意識も高いとは言えない現状であることが分かった。



⑤その他の取り組み

10月：大学祭での周知活動

- ・本プランの取り組み報告（FMB制作）
- ・千葉キャンパスでの大学祭において「防災・災害に関するシールアンケート（全4問）」を実施
（在学生・卒業生・地域の方々の防災意識に関する調査）



【成果】

- ・地域共生センターが防災に関する取り組みを推進していることの周知をすることができた。
- ・大学周辺の地域住民の簡易的な意識調査を行うことができた。
- ・大学近くの避難場所を知らない、防災等に関する知識に自身がない、といった防災に関して不十分であることの認識を持つ方が教職員・学生ともに多いことが分かった。

<シールアンケートの結果> N = 65

設問	学生	教職員	地域住民
①大学近くの避難場所がどこにあるか知っていますか			
知っている	3	3	9
知らない	17	13	19
②災害が起こった時のための備えをしていますか（複数回答可）			
食べ物の準備（備蓄）をしている	11	10	19
モノの準備（備蓄）をしている	10	10	9
心・場所の準備をしている	10	8	10
していない	4	5	13
③防災・災害・減災についての知識には…			
自信がある	2	5	12
自信がない	19	11	16
④防災について、興味があることは何ですか（複数回答可）			
日常生活でも使える防災対策	11	10	15
災害を経験した人の体験談	9	5	10
県・市・地域の対策・取り組み	9	5	15
今後の災害の予測について	4	6	14

まとめ

【今後の展開について】

学内でも災害に関して講義等で学ぶ機会があっても、身の回りの防災を考える機会が少ないことも分かった。この結果を受け、まずは学生が大学周辺の地域防災の現状を知り、大学周辺の地域住民にも展開できる防災に関する学びと実践の機会を展開することと、学びのアウトプットとしての地域住民への防災啓発活動を行い、学生と地域の両方への「地域共生型」の防災文化の醸成を引き続き次年度以降も目指したい。そうした協働的な動きを生むための下地作りから行うことで、今回プロトタイプ版を作成したFMBを効果的に展開していけるような流れに繋げていきたい。

【今後の展開について：学生編】

本プロジェクトの参加学生の中には、防災意識が高まり、自主的に他の災害支援・防災プロジェクトへ参加する学生もいた。そうした学生は今年度、防災・災害支援に関する知識についてかなりレベルアップしている。さらに豪雨災害の被災地をめぐるスタディツアーを提案する学生グループも現れ（3月実施予定）。そうした学生の防災・災害に関する意識を高める活動を本センターは支援し、学生・教職員・地域とともに災害・防災・避難時対応について考える環境づくりを今後も学生に提供していきたい。



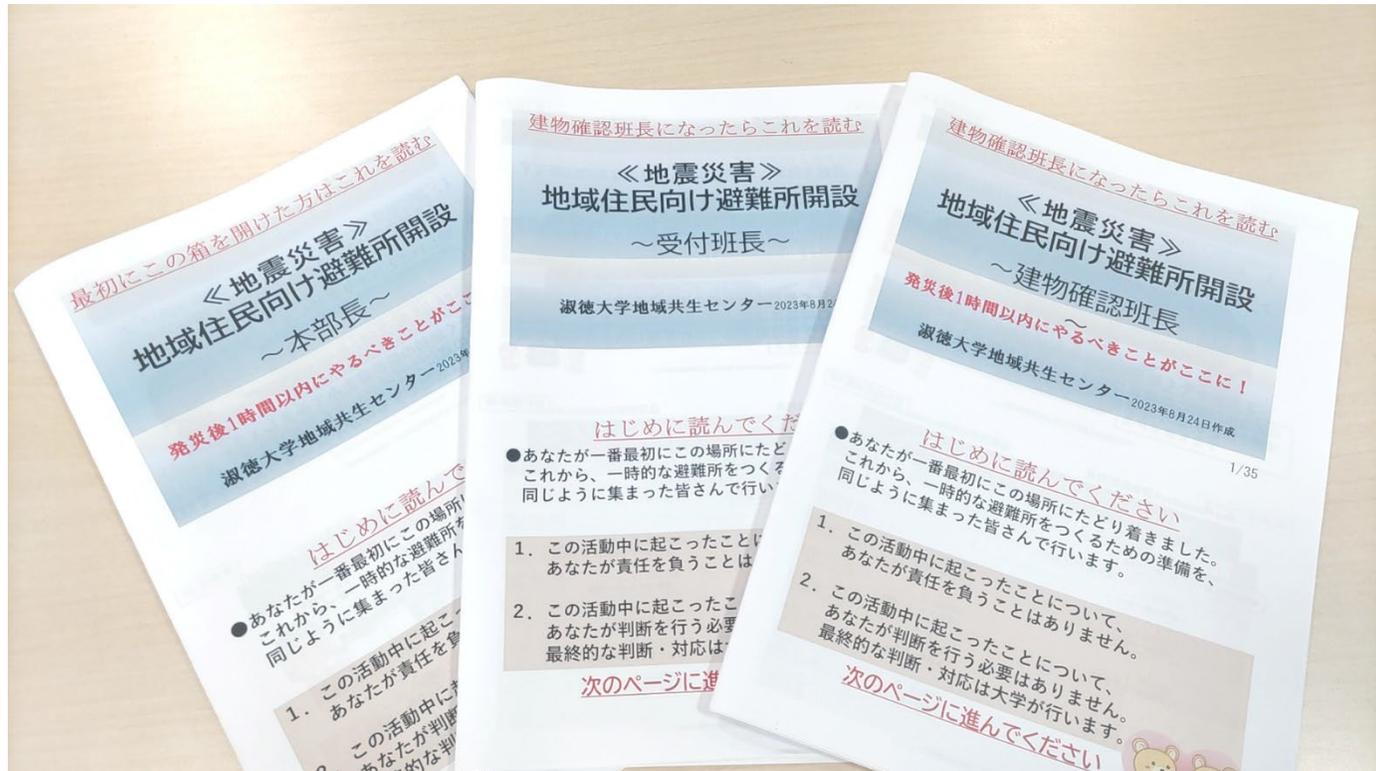
淑徳大学の災害時体制の確立

防災教育・災害時体制・災害支援

淑徳大学の災害時体制の確立は、学生・教職員・関係機関との連携・協力のもとに成り立つ。防災教育・防災訓練をはじめ、災害時に地域住民を受け入れる体制は、**他者に生かされ、他者を生かし、共に生きる「利他共生」**の精神を具現化するものであり、淑徳大学の使命でもあるので、引き続きファーストミッションボックスの制作を進めていく。

結びに

災害が起こった際には、全国各地の大学で地域の方々が支援を求めてくることが予測される。その際に、迷わず安全に地域の方々を含めた避難時対応できる仕組みを構築するためにも今後も検討していく。



ご清聴ありがとうございました



淑徳大学地域共生センター